

医師・看護師・介護職員の大幅増員を

日本医労連増員闘争ニュース

第45号

2009年10月21日

日本医労連増員闘争本部

TEL:03-3875-5871

FAX:03-3875-6270

執行委員会で方針転換を決定

日医連、自民党支持を白紙撤回

(2009年10月21日付 5754号 MEDIFAX 1面より)

日本医師連盟は20日、執行委員会を開き、自民党支持の白紙撤回を決めた。日医連と日本医師会を明確に分離する方針についても了承を得た。来年7月の参院比例代表選挙への対応については、医師の代表として現職の西島英利議員の推薦を支持する意見が多数を占め、西島氏支援の方針を再確認した。

【2頁に関連記事】

執行委員会終了後、内田健夫、中川俊男両常任執行委員が記者会見に応じた。執行委員会では、唐澤祥人委員長が政権交代につながった8月の衆院選を総括する文書を配布。日医連として▽多様な価値観を認め、是々非々で行動する▽日医の医療政策実現に向け、日医が与野党と良好な協議関係を構築するように支援する▽2002年策定の活動指針を見直す▽日医と組織的に、より明確な形で分離する一とする新たな方針を示した。内田常任執行委員は「いろいろな議論はあったが、現段階での唐澤委員長の総括としてお認めいただいた」と述べ、衆院選の総括が了承されたとの認識を示した。ただ「今後も会員からさまざまな意見が寄せられると思う」とし、総括の文章をブラッシュアップした上で、近日中に取りまとめる意向も明らかにした。

総括に盛り込まれた活動指針の見直しによって自民党支持の白紙撤回が決まった。02年9月24日に策定された活動指針には「支持政

党は政権与党である自民党とする」との文言があったが、唐澤委員長は政権交代でこの項目が「空文化した」と指摘し、その削除を求めた。内田常任執行委員によると、ほぼ満場一致で承認を得た。

来年夏の参院選について、日医連は今年1月の執行委員会で40都道府県の推薦も踏まえ、西島氏の推薦を機関決定しており、同日の執行委員会ではこの決定の見直しを求めるまでの議論はなかった。ただ内田常任執行委員は「2～3の県からそういう話があった」とし、「これが広がれば機関決定の見直しもあると思う」との見通しを示した。

政党支持の白紙撤回を受け、自民党以外の政党候補者から日医の推薦を求められた場合について、内田常任執行委員は「意見交換し、マニフェストを出してもらい、検討することになる」と述べた。組織内候補の擁立の見直しについても検討課題に位置付けた。

日医連委員長と日医会長の分離については規約改正が必要となる。現在、日医連内に検討委員会を設けて検討を進めており、年度内に一定の結論を得る見通し。

また日医連の今後の運営は、内田常任執行委員のほか、今村定臣、中川俊男、今村聡、石井正三の各常任執行委員の合議体制で臨むことになった。これまで主担当だった羽生田俊常任執行委員は西島氏の選挙対策を担当する。

「政権交代で混乱は当たり前」 日医連の方針転換に自民・西島氏

(2009年10月21日付 5754号 MEDIFAX 2面より)

日本医師連盟(唐澤祥人委員長)が自民党支持を見直したことに、日医連から推薦を受けている自民党の西島英利参院議員は20日、本紙の取材に対し「政権が移ったから混乱が起きるのは当たり前」と述べ、政権交代によって日医連が支持政党の見直しを余儀なくされたことに一定の理解を示した。【1頁に参照】

一方で日医連は、来年夏に控える参院選で、現時点では西島氏を推薦する方針を確認した。西島

氏も「全国の医療機関を視察していると、西島は医師の代表だと言われる」と述べ、党派にかかわらず医療関係者から支持を得ている現状を語った。

また、26日に招集される臨時国会での活動方針については「野党になったからといって、国会議員としてのスタンスが変わるわけではない」と述べ、社会保障制度の充実に向けて取り組む姿勢を示した。

(2009年10月21日付
読売新聞 4面より)

(2009年10月21日付
日経新聞 2面より)

参院選 悩む日医連

自民党の有力支持団体の参院選対応

団体	来年の参院比例選の対応
日本遺族政治連盟	現職の水落敬宗氏を自民党が1次公認
建設関係団体(全国建設業協会など)	現職の脇雅史氏を自民党が1次公認
日本医師連盟	現職の西島英利氏を自民党が1次公認
日本薬剤師連盟	前議員の藤井基之氏を自民党が1次公認
日本看護連盟	自民党から新人を擁立方針
全国土地改良政治連盟	自民党から新人を擁立方針
全国農業者農政運動組織連盟	新人擁立を検討中
日本歯科医師連盟	自民党からの新人擁立の方針を撤回

自民支持撤回

日本医師会の政治団体「日本医師連盟」(日医連)が20日、自民党支持を白紙撤回し、同党から距離を置くこととする業界団体の動きが加速していることが明らかになった。ただ、日医連も、民主党支持にかじを切るかどうかは決めきれず、今後、路線対立が激化する可能性がある。〈本文記事2面〉

対民主で路線対立も

20日の執行委員会では、「政権与党である自民党」を支持する」とした活動方針の撤回はすんなり了承されたが、今後の政党支持の方向性を決める来年夏の参院選への対応では意見が分かれた。

日医連では、組織内候補である自民党の西島英利参院議員が来年、改選を迎えるが、西島氏はすでに日医連の推薦も自民党の1次公認も得ている。西島氏への支援を継続するならば、参院選全体でも自民党支持の立場をとらなないと矛盾が生じることになる。

執行委員の一部は「西島氏への日医連の推薦は自民党が与党の時に決まったのだから、手続をやり直すべきだ」と主張した。これに対し、多くの委員から西

島氏は医師の代表だから当選させたい」という反論が出た。結局、西島氏の擁立方針を当面は維持することになったが、「このままで、は民主党と協議の窓口を開けなさい」という不満はくすぶっている。

唐澤祥人委員長(日医会長)らが西島氏の擁立方針の変更を提起しないのは、自民党との関係を断ち切って民主党に接近することためらいがあるからだ。民主党の医療政策が医師会にプラスなのかどうか、まだ分からない(幹部)ため、当面は様子見を続けようというわけだ。また、野党に転落したとはいえ、自民党は地方議会では依然、多数派を占めていることが多く、地方ごとに事情は異なる。実際、25日投票の参院神奈川補選では、神奈川県医師連盟は議員にアンケートを行ったうえで、自民党候補の推薦を決めた。

日本医師連盟

自民支持を撤回

民主議員への推薦も検討

野党との良好な協議関係を構築する一環として、自民党だけでなく、民主党などの議員への推薦も検討する。年内にも新たな活動方針を決める見通しだ。

日本医師連盟は自民党の有力な支持基盤で、支持政党を見直すのは初めて。日本医師連盟の方針で、各種団体の自民党離れに拍車がかかる可能性がある。

自民党の主な組織内候補		
組織内候補	得票数	当落
JAグループ		
山田 俊男	44万9000	当
日本遺族会		
尾辻 秀久	23万	当
日本歯科医師会		
石井みどり	22万8000	当
全国建設業協会		
佐藤 信秋	22万7000	当
日本医師会		
武見 敬三	18万6000	落
日本薬剤師会		
藤井 基之	16万8000	落
全国土地改良事業団体連合会		
阪本 幸男	12万8000	落
全国漁業協同組合連合会		
丸一 芳訓	10万	落

(注)07年参院選候補、敬称略

日本医師連盟はすでに次期参院選で組織内候補として自民党の西島英利参院議員の推薦を決めている。内田氏は「医師の代表として西島氏を応援したい」との意見は多い」と述べ、推薦を当面維持する考えを示した。ただ、一見厚き声の広がりがれば見直しもあり得る」とも語り、再検討する可能性を留めた。

来年春の日本医師会の会長選には、先の衆院選で民主党を支援した原中勝征、茨城県医師会長が立候補を表明した。3選を目指す唐沢氏も出馬の構えだ。原中氏は西島氏の支援継続に否定的と見られ、この問題は唐沢氏との間で争点となりそうな状況だ。